



写真:「みやぎ漁師カレッジ」
カキ養殖体験の様子
講師: 斎藤幸一 指導漁業士

海人

かいと

ごあいさつ



宮城県漁業士会 会長 小野寺 芳浩

会員の皆様におかれましては、日頃から、浜の中核として、地域水産業の復旧・復興に励まれていることと存じます。また、本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

当漁業士会は平成二年度に結成されて以来、平成三十年度で二十九年目を迎えることとなります。

震災から七年が経過し、生産基盤の復旧整備が進み生産も本格化してきました。これに併せて、漁業士会の活動についても徐々に再開してきております。また、今年度の新たな取組のひとつとして、漁業士の認知度向上を目的として、ロゴマークを作成いたしました。名刺やHP、商品パッケージへの使用等で幅広くご利用いただければと思います。

さて、漁業を取り巻く水産資源の状況は目まぐるしく変化しており、昨年を振り返りますと、サンマ、サケ、スルメイカが大不漁であった一方で、約六十年ぶりにマダコが大豊漁となるなど、一喜一憂した一年でありました。また、地球規模での気候変動に伴う台風の大規模化により、養殖物への被害も毎年のように発生しています。

本会と致しましては、こうした状況に対峙し、三陸の豊かな漁場を最大限活用しながら、今後とも漁業士会活動を活発化させてまいります。また、漁業士一人一人におかれましては、自らの知識と技術を活かしながら復興に向けた役割を果たしていくとともに、漁業を担う若い世代に受け継ぎ、漁業地域を活性化していくためにご活躍されることを期待しております。

最後になりますが、会報の発行にあたり、ご指導頂いた関係機関の皆様及び寄稿・編集に御協力頂いた会員の皆様にお礼申し上げますとともに、会員皆様の安全操業を祈念し、挨拶と致します。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

宮城県漁業士会事務局

平成二十九年六月二十日に県庁講堂において平成二十九年宮城県農業士・漁業士退任感謝状贈呈式及び認定証交付式が開催され、新たに指導漁業士四名、青年漁業士十一名が認定されました。

当日は十二名の漁業士が出席し、知事から直接認定証と徽章が交付されました。

これからの活躍を期待いたします。

○指導漁業士（四名）

阿部 慶昭さん

（ＪＦみやぎ北上町十三浜支所）

坂下 隆さん

（ＪＦみやぎ河北町支所）

千葉 周さん

（ＪＦみやぎ塩釜市浦戸支所）

赤間 辰之さん

（ＪＦみやぎ仙南支所（関上））

○青年漁業士（十一名）

伊藤 広樹さん（ＪＦみやぎ大谷本吉支所）

菅原 洋司さん（ＪＦみやぎ志津川支所）

菅原 学さん（ＪＦみやぎ志津川支所）

工藤 忠司さん（ＪＦみやぎ志津川支所）

小野 具大さん（ＪＦみやぎ志津川支所）

阿久津英法さん（ＪＦみやぎ雄勝町雄勝湾支所）

豊嶋 純さん（ＪＦみやぎ石巻地区支所）

中井 裕紀さん（ＪＦみやぎ石巻湾支所）

本田 孝彦さん（ＪＦみやぎ石巻湾支所）

津田 大さん（ＪＦみやぎ矢本支所）

水間 健二さん（ＪＦみやぎ塩釜市第一支所）



新たに認定された漁業士

漁業士研修等の報告

平成二十九年宮城県・北海道ブロック漁業士研修会

宮城県漁業士会

指導漁業士 高橋 征信

平成二十九年七月十四日と十五日の二日間に渡り、東北・北海道ブロック漁業士研修会が山形県酒田市で開催され、最知監事と私が出席しました。

初日は「漁業の成長産業化（水産基本計画）、沿岸漁業と沖合漁業との調整」や「最近の流通事業について」等に関する講演が行われたほか、各道県の漁業士会の活動報告及び意見交換が

行われました。意見交換会では、各道県の漁業士会活動の報告や、先進的な取組・元気のある取組についての紹介がありました。

二日目の現地視察では、海の守護神・龍神の寺として全国的に知られている「善宝寺」にて研修参加者全員の実地安全祈願を行いました。その後、鶴岡市にある加茂水族館へ移動し、普段なかなかお目にかかることができない水族館のバックヤードの見学を行いました。

来年度の東北・北海道ブロック漁業士研修会は青森県で開催されます。



研修会の様子（１日目）



善宝寺での安全祈願の様子（２日目）

平成二十九年宮城県・北海道女性漁業士交流会

宮城県漁業士

指導漁業士 鈴木 典子

平成二十九年宮城県の交流会は十月二十五日と二十六日の二日間の日程で茨城県日立市にて開催され、尾形静子指導漁業士と私が出席しました。

今年度の話題提供では、茨城県水産試験場の渡邊直樹氏を講師に迎え、「茨城の水産業について」といったテーマで講演が行われました。茨城県は、地理的な条件から養殖業は無く、天然物を捕らえる漁船漁業が盛んであり、魚の特性に合わせた漁業が発達してきたことでした。中でも、シラス曳網では、鮮度の良い生しらすを茨城県水産試験場が開発した特殊な技術を使って冷凍し、一定の条件を満たすシラスを「海の輝き」としてブランド化して販売し、高値で取引されているとのことでした。また、茨城県では、市場での水揚げの際の陸上作業を女性が行っているとのことでした。

意見交換会では、各県の女性漁業士の活動報告が行われ、その後、各班に分かれ、自由なテーマでグループ討論を行いました。私の班では、漁業種類がそれぞれ異なる人たちが集まったため、いろいろな話で盛り上がり、特に岩手県の女性漁業士が、以前宮城県で開催した本交流会でパソコンでの青色申告を進められ、今ではお嫁さんに聞きながら始めたパソコンを使い、自分で青色申告をしているとのこと

とで、本交流会が有意義な意見交換をする場であることを再認識いたしました。

二日目は久慈浜丸小漁協の加工場と久慈地方卸売市場の視察を行いました。加工場の見学では、シラスを茹でる前に電解水でよく洗った後に茹で、冷風乾燥機を使って四十分ほどでむらす干しが完成することでした。また、漁業者自ら加工場に来て加工作業を行うことで、漁業者は加工のアルバイト代をもらうので漁業者の収入アップにつながっているとのことでした。魚市場の見学では、洗浄効果の高い電解水や選別用パレット、中古の防鳥ネット等を導入し、百数十万円で工夫次第で衛生管理ができることを学びました。交流会は各県の女性漁業士が再会し、喜びと新たな問題を分かち合える貴重な場となりました。また、他県の漁業者が自分と同じ問題も含め様々な課題を抱えながらも前向きに生産活動に取り組んでおり、力をいただくことができました。来年は宮城県が幹事県となります。女性漁業士をはじめ、多くの漁業士の皆様の御協力をいただき、他県の女性漁業士をおもてなし、震災から復興した宮城県の水産業の姿を紹介したいと思っています。



平成29年度 東日本女性漁業士交流会



他県の女性漁業士と一緒に記念撮影



女性ならではの視点での活発な討議の様子

平成二十九年度

全国漁業士連絡会議

宮城県漁業士会

指導漁業士 小野寺芳浩

平成二十九年度の全国漁業士連絡会議が平成三十年二月二十八日に農林水産省で開催されました。

当年度は水産庁の事務局で決定したテーマである「漁業者自ら又は浜の女性や地域と連携した魚価向上の取組や販路拡大に向けた流通、小売業者との連携」について議論がなされました。東北・北海道ブロックからは、代表県である青森県から、「あおもりマルシェ」の取組について報告がありました。また、他のブロックからは、スーパーとの直接取引、直売所・道の駅での漁業士自らの水産物販売、地元ホテルなどの異業種を通じた未利用魚の販路開拓などの取組について報告がありました。さらに、魚食普及については、子供が美味しいと思うことが重要であり、子供をターゲットにした魚の捌き方の出前授業、修学旅行での加工品作りなどの取組事例の紹介もありました。

「次年度ディスカッションテーマ」については、各ブロックから「漁業士の役割」を再検討することが提案されましたが、意見がまとまらず、最終的なテーマは、事務局一任の方向となりました。

他の都道府県の先進的な取組事例を知ることができる貴重な場であり、今後ともこの会議を機に全国の漁業士会

との情報交換や連携を通じて、本県漁業士会の発展に寄与することを目指していきます。



全国漁業士連絡会議の様子

支部だより

北部支部

岩手県漁業士会大船渡支部と宮城県漁業士会北部支部の交流会開催について

宮城県漁業士会北部支部事務局

平成二十九年九月五日、岩手県漁業士会大船渡支部と宮城県漁業士会北部支部の交流会を開催しました。

この交流会は、両支部の抱える様々なテーマに関する情報交換を行い、その成果を生産現場に活かすとともに相

互の親睦を深めることを目的として平成十一年度から始まったものです。交流会は東日本大震災後の二年間を除いて毎年開催しており、平成二十九年間で十七回目となります。

今回は、北部支部の主催により気仙沼市のサンマリン気仙沼ホテル観洋において開催し、大船渡支部会員八名、北部支部会員十三名、両県関係者や系統団体から十名の計三十一名が参加し、さらには岩手県漁業士会釜石支部から飛び入り参加もありました。

交流会では、参加者の自己紹介を行ったあと、両支部に特に共通するカキ、ホタテガイ、ワカメ養殖業および漁船漁業について、意見交換を行いました。内容は、カキのノロウイルス検査体制や加熱用カキの販路拡大、ホタテガイ半成貝の生育状況、ワカメの安定出荷に向けた早生種と晩生種の使い分けなどに及んだほか、漁船漁業では暖水系魚種の増加や春漁の話題が出るなど、活発な意見交換が行われました。交流会の後には懇親会が行われ、お互いの浜への訪問を約束する参加者も見られました。来年度の交流会は大船渡支部の主催により開催予定です。



地元飲食店との意見交換を行いました

宮城県漁業士会北部支部事務局

宮城県漁業士会北部支部研修会

平成三十年二月一日、宮城県気仙沼合同庁舎において「宮城県漁業士会北部支部平成二十九年第二回研修会」



交流会の様子

を開催しました。

今回の研修会では、飲食店側から見た地元水産物に対するニーズを把握し、水産物のさらなる活用、販路拡大に繋げることを目的として、漁業士と地元飲食店の意見交換を行いました。

「地元水産物の活用について」気仙沼寿司組合の加藤副組合長から御講演いただき、「活締めした魚が欲しい」「皆物（みなもの）のサイズ、量などがまとまらない雑魚」があれば提供してほしい」「ワカメと煮魚を組み合わせた」「インスタ映えする提供方法もよい」などのお話を頂きました。質疑応答では、「加熱用カキのおすすめの料理法は何か」といった質問や、逆に加藤副組合長から参加漁業士の生産物に対する質問もあり、非常に活発な意見交換が行われました。

また、宮城県水産業振興課から「みやぎ水産の日 販路開拓の取組について」、同気仙沼地方振興事務所水産漁港部から「気仙沼の魚食文化について」の情報提供があり、水産物の販路拡大や魚食普及のヒントを探りました。

研修会後の意見交換会では、加藤副組合長から漁業士が生産した水産物を活用した料理を提供していただき、参加漁業士も普段家庭ではあまり口にすることのないメニューに舌鼓を打ちました。

参加漁業士からは、この研修会をきっかけとして今後、飲食店等との連携を活発化し、地元水産物の情報発信等に繋げていきたいとの意見もあり、大変有意義な研修会となりました。

中部支部

震災から支部活動の再開に向けて

宮城県漁業士会

指導漁業士 西條 幸正

新技術習得交流事業（先進地視察）

中部支部では、新たに活動を実践する際に参考となる国内の最新の漁業活動や、漁業に関する知識、漁獲物の付加価値向上など、先進事例を学ぶための漁業士研修事業を実施しています。今年度は平成二十九年九月二十七日から二十九日までの三日間の日程で、「東しゃこたん漁業協同組合」と「地方独立行政法人 北海道立総合研究機構



研修会の様子



東しゃこたん漁協の方と意見交換

中央水産試験場」を訪問しました。
今回の視察テーマは、「磯焼け対策」です。本県沿岸では、近年、牡鹿半島以北で磯焼けが進行しており、重要な磯根資源であるアワビやウニの身入り低下（やせアワビ、質の悪いウニ）が確認されています。
特に、ウニについては、震災後、採捕する漁業者が減少し、ウニ増加に伴う摂餌圧の増大により、磯焼けが進行するという悪循環に陥っております。
今回の視察により、磯焼け対策及び磯根資源の身入り向上のポイントを知ることができたことから、管内漁業士や、青年部・研究会にも周知し、本地域の磯根資源の実入り向上に役立てたいと思います。

当支部管内では、カキ、ワカメ、ホタテ、ノリなど様々な養殖が行われておりますが、いずれの養殖種においても、経営の安定確保が課題となっております。

水産宮城県漁業士会中部支部地区懇談会

宮城県漁業士会中部支部事務局

漁家経営について学ぶ



(独)北海道立総合研究機構・中央水産試験場での意見交換



東しゃこたん漁協の森作り現地研修



藤島相談員から漁家経営を学ぶ中部支部の漁業士

そのため、宮城県水産業経営支援協議会の藤島武雄経営相談員と北村俊幸経営相談員を講師として招き、「宮城県における養殖業の経営安定」についてと題し、今後の漁業経営改善に対する具体的な対応策を検討できるように地区懇談会を開催しました。
地区懇談会は地域の養殖形態に即した意見交換となるよう、二地区に分け九月二十五日と一月三十日の二回開催しました。
両日とも、参加者から自らの経営に関する現状を基に積極的な意見交換が行われ、今後の漁業経営に役立つ情報を得ることができ、実りある懇談会となりました。

南部支部

「水産×ITの取組について」

宮城県漁業士会南部支部事務局

青年・女性漁業者交流大会での発表

平成二十六年三月に仙台で開催された「水産×IT×ITのちからで水産業の未来を拓く」というセミナーに参加したことをきっかけに、南部支部では、IT関連企業や大学に協力をいただきながら、漁業現場へのIT利用促進の勉強会を開催したり、海洋観測機器等を用いた実証試験を行うなどの活動を続けてきました。関連するシンポジウムなどにも積極的に参加し、IT関連業界の方々と情報交換する中で、今後の漁業現場におけるIT利用の可能性が非常に大きいと感じ、これまでの取り組み内容について第十六回宮城県青年・女性漁業者交流大会で発表しました。



青年・女性漁業者交流大会での発表

残念ながら、最優秀賞に届きませんでしたが、大会に参加した多くの方々に私たちの思いを伝えることができました。

石巻地区支所青年部の研修会

青年・女性漁業者交流大会の講演を聞いた宮城県漁業協同組合石巻地区支所青年部から千葉支部長に対し、同青年部主催の研修会（平成二十九年九月十五日開催）における講師依頼があり、参加しました。

研修会では、南部支部の活動紹介の後、IT利用の可能性等について事例を交えながら講演しました。活発な質疑応答の後、千葉支部長から「ITに興味がある方、ITを活用して問題解決したい方は、いつでも遠慮なく漁業士会南部支部に連絡ください。」と伝え、研修会は終了しました。

漁業には少なからず経験と勘が必要となる部分がありますが、IT等でこれを補完することで、経験が少ない後継者や新規就業者の技術的なハードルを下げたり、高齢漁業者の負担を軽減することができると考えています。南部支部以外の方でも、勉強会等への参加を歓迎しています。



石巻地区支所青年部の研修会

仙台うみの杜水族館で開催したワークショップ

宮城県漁業士会南部支部事務局

「漁師が教えます」今から旬の宮城県のノリとカキのおいしさの秘密」と題し、小学生と保護者を対象としたワークショップを平成二十九年十一月五日に仙台うみの杜水族館で開催しました。

当日は、一時間／回のワークショップを二回実施し、小学生にはノリの手すき体験、乾海苔の焼き体験、カキの解剖と体の構造についての学習を指導し、保護者には安全なカキの剥き方を説明しました。

参加した小学生二十四名（十二名／回）、保護者三十六名のうち半数が県外からの参加者でした。参加者へのア



ノリの手すきの指導

ンケートから、県内でカキ養殖が行われていることは知っていてもノリ養殖が行われていることを知らない人が宮城県民でも意外と多いこと、ノリは毎日食べる人が多いのに対しカキをほとんど食べないという人が多いことなどがわかりました。参加者からは、「日ごろ体験できないことを勉強できた」などの感想をいただきました。また、「カキにあたってから遠ざかっていたが、また食べてみたくなった」、「カキを剥けないので殻付カキを買うことはなかったが、たまには殻付カキを買おうと思う」などのうれしい感想をもらいました。

南部支部では、今後も宮城県の漁業・養殖業を広く消費者に伝えようと、魚食普及活動を進めていきます。



仙台うみの杜水族館でのワークショップ

トピックス 「みやぎ漁師カレッジ」が 開催されました

宮城県漁業士会事務局

「みやぎ漁師カレッジ」長期研修及び短期研修が開催され、座学や漁業現場の講師として多くの漁業士の方に御協力いただきました。

本県の漁業就業者数は、高齢化や後継者不足により減少の一途を辿っており、東日本大震災によりその傾向は一層顕著となっています。本県の漁業者数は、平成二十五年現在で約六千五百



ホヤ養殖研修の様子

人ですが、県の試算では平成五十年には、約三千二百人に半減すると推測されています。このため、水産業の担い手となる後継者の育成、新規就業者の確保が急務となっており、地域の水産業を担う若い世代の人材育成と定着を図るため、県では平成二十八年度から「みやぎの漁業担い手確保育成支援事業」を立ち上げ、「みやぎ漁師カレッジ」による七ヶ月の長期研修や五日間の短期研修を実施しているところであります。

平成二十九年六月一日から始まった「みやぎ漁師カレッジ長期研修」では、県内から新規漁業就業希望者二名、漁業後継者五名の計七名が集まり、宮城の水産業の概要、水産関係諸制度、ロープワーク等の座学、ノリ・カキ・ワカメ・ギンザケ・ホヤ・ホタテ養殖、刺網、定置網等の現場研修を経験しました。



南部支部と研修生との意見交換会

また、研修の中で、漁師になるために必要な一級小型船舶操縦士、第二級海上特殊無線技士、3級簿記の資格を取得しました。長期研修は平成二十九年十二月二十二日に無事修了式を迎えることができました。新規漁業就業希望者のうち、一名は現在七ヶ浜のノリ養殖業に就業しています。

平成二十九年八月二十一日から二十五日に開催された「みやぎ漁師カレッジ第一回短期研修」では、県内外から十一名が集まり、カキ養殖、スズキ延縄、刺網を体験しました。このうち、岩手県から来た高校生は、平成三十年四月からJDFみやぎ鳴瀬支所の(株)大友定置に就業する予定となっています。



スズキ延縄体験後短期研修生との記念撮影

平成二十九年十一月十三日から十七日に開催された「みやぎ漁師カレッジ第二回短期研修」では、県内外から四名が集まり、カキ養殖、ホヤ養殖、サケ定置網などを体験しました。このうち、東京から来た男性は、平成二十九年十二月からJDFみやぎ石巻市東部支所のカキ養殖業を経験し、本県での就業を強く希望しています。



漁業士からロープワークを学ぶ短期研修生

県では次年度以降も「みやぎ漁師カレッジ」長期研修及び短期研修を行う予定です。

「みやぎ漁師カレッジ」に御協力いただいた漁業士の方々をご紹介します。(順不同)

○「長期研修」

高泉 元幸	青年漁業士
千葉 周	指導漁業士
鈴木 公義	指導漁業士
相澤 太	青年漁業士
大友 康広	青年漁業士
三浦 恒志	指導漁業士

○「第一回短期研修」

斎藤 幸一	指導漁業士
内海 広志	指導漁業士
大友 康広	青年漁業士

○「第二回短期研修」

小野寺敏一 指導漁業士
高橋 源一 指導漁業士
工藤 忠司 青年漁業士
佐々木昇記 指導漁業士
行場 博文 指導漁業士
小野 具大 青年漁業士
三浦 恒志 指導漁業士

漁業士以外にも漁業士OB、漁業関係者、漁協関係者、水産業普及指導員など、多くの方々に御協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、来年度の漁師カレッジに御協力いただける漁業士の方がいましたら、漁業士会事務局にご連絡下さい。

「2017漁業就業支援フェアin仙台」が開催されました

宮城県漁業士会事務局

宮城県と公益財団法人宮城県水産振興協会が主催する「2017漁業就業支援フェアin仙台」が平成二十九年九月二日に仙台市にあるイベントホール松栄で開催されました。

このフェアは、「漁業就業希望者」と「若い担い手を確保・育成したい漁業者」が集まり、新規就業について直接相談できる場を提供し、マッチングを図るため、平成二十九年年度に県が初めて開催したものです。当日は台風通過後の小雨が降っている状況にも関わらず、八十名以上の来場者があり、十二団体（県漁協、県沖合底曳網漁協、北



先輩漁師の話に耳を傾ける来場者



出展団体ブースの様子

部船主協会等）がブースを設け、漁業就業希望者に海の仕事の魅力を伝え、活発な質疑に答えていました。漁業士では、千葉周指導漁業士と大友康広青年漁業士が参加しました。
来年度以降も同フェアを開催予定ですので、担い手を確保したい漁業士の方がいましたら、漁業士会事務局にご連絡下さい。

ライフジャケットの着用義務化について

宮城県漁業士会事務局

平成三十年二月一日から、二十トン未満の小型船舶の船室外の甲板上では、原則、すべての乗船者にライフジャケットを着用させることが、船長の義務となりました。違反した船長には違反点数二点が課され、再教育講習を受けなければなりません。再教育講習を受講した方は、累積点数が処分に達した場合を除き、累積点数から二点が減じられます。また、違反点数が累積して行政処分基準に達すると最大で六ヶ月の免許停止の対象となります。なお、違反点数の付与は、平成三十四年二月一日から開始されます。

ライフジャケット着用者の海中転落時の生存率は、大幅に高くなることが調査で示されています。ご自身とご家族を守るためにも、ライフジャケットを着用するようにしましょう。また、地域のリーダーである漁業士の皆様は、率先してライフジャケットを着用し、周囲の漁業者にも着用を促すようお願いいたします。



○行政処分基準

過去1年以内の違反累積点数					過去3年以内の処分前歴
6点	5点	4点	3点		
業務停止3月	業務停止2月	(処分の対象外)		無	有
業務停止6月	業務停止5月				
		業務停止4月	業務停止3月		

※処分前歴とは、遵守事項違反等による処分又は海難審判所の採決による操縦免許に係る処分の前歴をいう。

青年漁業士養成講座について

宮城県漁業士会事務局

宮城県が主催する「青年漁業士養成講座」が平成二十九年七月二十六日・二十七日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

受講者は昨年度を上回る十五名もの参加となり、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会会長からの基調講演等の講義を熱心に受講していました。本講座を受講された方には、宮城県指導漁業士又は青年漁業士の認定資格が与えられます。認定後のご活躍を期待しています。

○受講者の方々

畠山 泰さん (JFみやぎ気仙沼地区支所)
 尾形 拓弥さん (JFみやぎ気仙沼地区支所)
 須藤 大介さん (JFみやぎ志津川支所)
 後藤新太郎さん (JFみやぎ志津川支所)
 佐藤 寛高さん (JFみやぎ北上町十三浜支所)
 武山 綾佑さん (JFみやぎ北上町十三浜支所)
 千葉 拓実さん (JFみやぎ雄勝町雄勝湾支所)
 横江 健至さん (JFみやぎ雄勝町雄勝湾支所)
 後藤 章さん (JFみやぎ石巻市東部支所)



青年漁業士養成講座の様子

阿部 裕一さん (JFみやぎ石巻地区支所)
 齋藤 恭子さん (牡鹿漁協)
 手代木泰伸さん (JFみやぎ鳴瀬支所)
 水間さわ子さん (JFみやぎ塩釜市第一支所)

石森 圭太さん (JFみやぎ七ヶ浜支所)
 木村 宏さん (JFみやぎ仙南支所(亘理))

第十六回宮城県青年・女性漁業者交流大会の開催について

宮城県漁業士会事務局

平成二十九年八月十日に石巻市河北総合センター(ビッグバン)を会場として、第十六回宮城県青年・女性漁業者交流大会が開催され、青年三団体、女性グループ三団体の計六団体が日ごろの活動実績が報告されました。

①水産X-I-Tの取り組み

先輩漁業者の経験を数値化して
 後輩に伝えたい

宮城県漁業士会南部支部

千葉 周

②浜に笑顔を取り戻せ!

震災を乗り越えて、浜っこあちゃん市
 六年の軌跡

JFみやぎ仙南支所(亘理)水産加工研究会

木村 光子

③鮫浦湾で生きる。俺達本気

震災を超え、次世代のために

JFみやぎ谷川支所青年部

渥美 政雄

④再スタートからの軌跡

止まらないおらほの女性部

JFみやぎ表浜支所女性部

木村 勝子

⑤持続可能な漁業を目指して

豊かな志津川湾の恵みを次世代へ

JFみやぎ志津川支所青年部

渡邊 太治

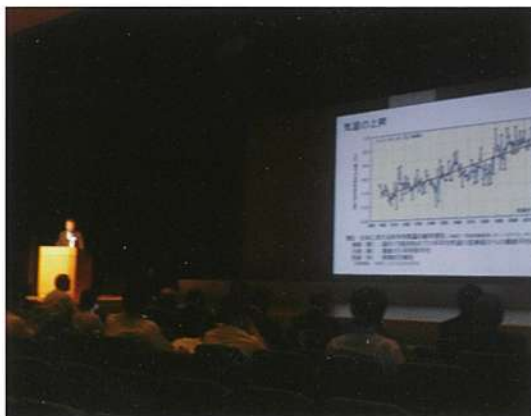
⑥私達の戸倉を元気にするために

JFみやぎ志津川支所戸倉女性部

後藤 幸恵

松岡由香利

小野寺光子



交流大会の様子

震災を乗り越えた活動や技術の向上に関する取組など、いずれの発表も素晴らしいものでしたが、審査の結果、JFみやぎ谷川支所青年部及びJFみ

やぎ仙南支所(亘理)水産加工研究会が平成三十年三月に東京で開催される全国大会へ推薦されることとなりました。なお、昨年度県代表として全国大会で発表したJFみやぎ歌津支所青年部が水産庁長官賞、JFみやぎ唐桑支所女性部がJF全国女性連・JF全国漁青連会長賞を受賞しています。

第二十三回全国青年・女性漁業者交流大会で好成績

宮城県漁業士会事務局

平成三十年三月一日・二日に東京都のホテルグランドアーク半蔵門を会場として、第二十三回全国青年・女性漁業者交流大会が開催され、JFみやぎ谷川支所青年部及びJFみやぎ仙南支所(亘理)水産加工研究会が活動実績を発表しました。

各都道府県の審査を勝ち抜いた全国の青年・女性漁業者が日ごろの研究・実践活動を発表する場とあって、どの発表もレベルの高いものでありました。本県の代表は、宮城県青年・女性漁業者交流大会からさらに磨きかけた活動実績発表を行い、審査員から高い評価を受け、JFみやぎ仙南支所(亘理)水産加工研究会が第三分科会(流通・消費拡大部門)でトップの農林水産大臣賞、JFみやぎ谷川支所青年部が第四分科会(地域活性化部門)で第二席の水産庁長官賞を受賞しました。本当におめでとうございます。

第23回 全国青年・女性漁業者交流大会



農林水産大臣賞を受賞したJFみやぎ仙南支所(巨理)水産加工研究会の木村さんほか

漁業士会参加行事

宮城県漁業士会では平成二十九年度に以下の行事に参加・協力をいたしました。

漁業士認定検討会

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

宮城県漁業協同組合青年部総会

来賓として会長が出席しました。



第十六回宮城県青年・女性漁業者交流大会

本大会は県内の青壮年・女性グループが参加し取組事例等を発表する大会。会長が来賓として出席しました。

水産青年フォーラム

この催しは宮城県漁業協同組合青年部が主催するグループ討議の場であり、六名の漁業士を助言者として派遣した他、会長が来賓として出席しました。

農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会

この催しは農山漁村の男女共同参画の推進について意識啓発を図り、女性とその能力を発揮できる社会の実現を目指すことを目的とした大会です。宮城県漁業士会として大会の後援を行いました。

退任漁業士のお知らせ

平成二十八年度末までに認定期間が終了し、退任されました方は次のとおりです。

指導漁業士

○平成二十八年度末任期満了

- 三浦 伸一さん (JFみやぎ大谷本吉支所)
- 後藤 清喜さん (JFみやぎ志津川支所)
- 伏見 眞司さん (JFみやぎ石巻地区支所)
- 木村 千之さん (JFみやぎ浜支所)

門馬 幹彦さん (JFみやぎ宮戸支所)
また、石垣拓真さん (JFみやぎ鳴瀬支所)、山内典子さん (JFみやぎ宮戸西部支所)、佐々木大輔さん (JFみやぎ北上町十三浜支所)が事情により、今年度退任されました。
これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

『みやぎ水産の日』

宮城県漁業士会

平成二十六年十月から宮城県により、県産水産物の消費拡大を図る取組の一環として、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と制定し、県漁協、市場関係や販売店等と連携して、水産物の魅力を発信する取組をスタートしています。

これに併せ、宮城県漁業士会としても各支部で「みやぎ水産の日」にあわせて販売会などの取組を行っています。

第3水曜日は

今後とも宮城県漁業士会「みやぎ水産の日」と連携した取組を展開していきます。



宮城県漁業士会

ロゴマークの決定

これまで、漁業士会役員会や研修会等で漁業士の認知度向上(P.R.)を目

的として漁業士会のPR用ロゴマークの作成について議論を重ねてきました。平成二十九年度第二回役員会において、ようやく宮城県漁業士会のロゴマークが決定したところであります。宮城県漁業士会の認知度向上を目的とした取組(名刺、封筒、ホームページ、店舗の入口への掲示等)、商品パッケージへの使用、及び商品の販売促進等で幅広くご活用いただければと思います。使用規程や申請書、ロゴマークの電子データは宮城県農林水産部水産業振興課のHP(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suisin/>)に掲載されております。詳しくは県漁業士会事務局又は所属の支部事務局にお問い合わせください。



海人では、皆様からの原稿をお待ちしています。内容は自由で、400字詰め原稿用紙一枚から二枚にまとめ、漁業士会事務局までお送りください。

海人編集委員

(敬称略)

- ・北部委員 小野寺芳浩
- ・中部委員 西條 幸正
- ・南部委員 高橋 征信 (委員長)